

新規液体增量剤を利用した果樹の省力的人工受粉技術の確立

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構果樹研究所 横村 芳記

2 研究期間

2004～2006年度（3年間）

3 研究目的

りんご、日本なし等の果樹栽培においては、多大な労力を必要とする人工受粉の省力化、軽労化が求められている。このため、キウイフルーツ用に開発された新規液体增量剤を活用し、人工受粉を必要とする主要果樹における溶液受粉技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

① 溶液の物理・化学特性が花粉の生理活性に及ぼす影響の解明

((独) 果樹研究所)

溶液中における花粉の発芽能力等生理活性保持条件を解明する。

② 受粉効率の高い液体增量剤の開発（愛媛県立果樹試験場）

キウイフルーツ用液体增量剤を改良し、人工受粉を必要とする主要果樹において利用可能な液体增量剤を開発する。

③ 溶液受粉に適した散布装置の開発（松下電池工業（株））

既存の装置を改良し、溶液受粉に適した散布装置を開発する。

④ 主要果樹における溶液受粉技術の確立（秋田県果樹試験場、高知県農業技術センター果樹試験場、和歌山県農林水産総合技術センター果樹試験場かき・もも研究所）

りんご、日本なし、もも及びかきにおける実用的な溶液受粉技術を確立し、マニュアル化する。

5 目標とする成果

りんご、日本なし、もも及びかきにおける溶液受粉技術が確立される。これにより、人工受粉に係る労力、経費が50%以上削減されることが期待される。